

久留米の自然



久留米の自然 109号 2010年7月1日

カササギ 撮影日：(左) 2010年6月14日 (右) 2010年2月18日

撮影者：大木武彦 撮影場所：浦山公園 左：ミミズをついばむカササギ 右：イチヨウの樹上のカササギの巣

カササギ

河内 俊英

スズメ目カラス科の鳥でカチガラス、コウライガラス、ヒゼンガラスなどとも呼ばれる。分布：海外では、イギリス、ヨーロッパ全域、ロシア平原、中央アジア、モンゴル、アムール地方、ウスリー地方、朝鮮半島、ベトナム、北アメリカ西部に生息しており、北半球では決して珍しい鳥ではない。日本では、佐賀平野一帯や福岡県・筑後平野一帯などの有明海を取り囲む平野部を中心に生息している。しかし、近年分布が拡大して、糸島市、福岡市西部にも分布を拡大している。

また、北海道、長崎県、熊本県、大分県の一部地域でも少数生息していることが報告されている。1922年(大正12年)に地域指定の国の天然記念物になり、佐賀県の県鳥に指定されている。日本のカササギは、16世紀の秀吉の朝鮮侵略(文禄慶長の役)によって、朝鮮半島からもたらされたと言われている。

穀類や昆虫、木の実などを食べる雑食性である。コオロギ、バッタ、イナゴなど地面に生息する昆虫も捕食する、トラクターで田畑を耕起している

とそのあとを追うようにして昆虫やミミズなどを捕食する。

早い場合は10月下旬から営巣場所の選定を開始し、1月中旬から3月中旬頃までにクスノキやケヤキなどの樹木に木の枝・針金やわらなどで巣を作る。しかし現在では都市化の影響で、電柱に巣を作る個体が増加しているが、これは時として停電を招くこともある。そのため、九州電力では、電柱上の変圧器付近に黄色い風車を取り付けるなどして、巣を作らせないような対策をたてている。巣は縄張り内に数個つくりその中で気に入ったものを使い5個前後の卵を産みメスが抱卵し5月下旬にはヒナは巣立つ。巣立った若鳥は12月頃まで集団生活するが、その後番いを形成して分散し、個別の縄張りを持つようになる。なお、番いの関係は一生続く。カササギの一番の天敵はカラスで、カササギの巣を襲い、卵やヒナを捕食するのを見たという目撃例がある。また、巣立ち直後のヒナについては、ネコに襲われる。その他には、ヘビ、イタチ、フクロウなどがあげられている。

第29回くるめ緑の祭典グリーンキャンペーンにおいて幹事角正博氏が緑の貢献者表彰

橋田 沙弓

平成22年5月4日(祝)午前10時、筑後川発見館くるめウスにおいて、第29回くるめ緑の祭典グリーンキャンペーンが開催されました。その緑の貢献者12名表彰の中で、個人表彰の部で当会の角正博幹事が、「約10年に亘りキノコ類の専門として自然観察指導に従事」ということで、久留米市長より、賞状が授与されました。秋に始めた高良山四季の森経由のキノコの観察会もキノコビンゴゲームが子どもたちに好評です。現在も連載中の高良川流域のキノコが10回目を迎え、コツブタケ、ツチグリニセシウロが紹介されています。これからも頑張っていて欲しいと期待されています。



表彰状を手にする角正博氏

高良川流域のキノコ(その11)

角 正博

今回も、ニセシウロ属の菌類についての報告です。

2.2. ショウロダマシ(ザラツキカタカワタケ、ザラツキニセシウロ粗付偽松露)

S. verrucosum

子実体は小型で扁球形、殻皮(表皮)は暗オリー

ブ褐色。成熟すると次第に殻皮最外層にひび割れが生じ、中層の地肌の上に固着した暗褐色の永存性の細鱗片となって覆います。さらに熟すと上部が裂開します。内部(基本体)は、幼菌では白色、成熟すると胞子は黄色を帯びた暗褐色となります。基部には白色で根状菌糸束が寄り合わさった偽柄(無性基部)があり、柄のように見える場合が多くあります。高良川流域では、林内地上に6月中旬~9月上旬にかけて見られます。実際には一々、胞子を観察するわけではないので、酷似するヒメカタショウロ(姫硬松露) *Scleroderma areolatum*、*S. lycoperdoides*と混同している例もあると思われます。

ヒメカタショウロの子実体は小型で扁球形、殻皮は単層で淡褐色、成熟すると次第に殻皮最外層に微細なひび割れが生じ、黄褐色の中層の地肌の上に固着した暗褐色の永存性の細鱗片となって覆います。さらに熟すと上部が裂開します。内部(基本体)は、幼菌では白色、熟すと灰褐色~紫褐色となります。基部には白色でよく分岐した根状菌糸束が寄り合わさった集合体である短い偽柄(無性基部)があり、ほとんど地中に埋もれています。殻皮の切断面は、空気に触れると暗赤色に変色します。

相違点は、ヒメカタショウロが、殻皮が比較的厚く、胞子は径10.5~15.0 μ m程度、著しく長い針状突起(1.5~2.5 μ m)を密生するのに対して、ショウロダマシは、一般に偽柄がより発達し、殻皮がやや薄く、胞子がいくぶん小さく径8.4~11.7 μ m、その表面の針状突起(1~1.5 μ m)も細くて短いとされています。

このほか、日本産ニセシウロ属で胞子に針状突起があるとされているものに、ウスキノセシウロ *S. flavidum*、タマネギモドキ *S. cepa*、ツブニセシウロ *S. laeve* があります。

タマネギモドキ *S. cepa* の胞子は径(8~)10~12 μ mで、針状突起があります。殻皮の厚さは1mm以上あり、多少亀裂が生じる程度で多くは平滑、こすると赤紫色になるとされています。

ツブニセシウロ *S. laeve* は、タマネギモドキに似て、胞子は径8.5~12(~13) μ mで、針状突起があります。



ヒメカタショウロ子実体

ヒメカタショウロ 殻皮の切断面は、
空気に触れると暗赤色に変色

で、時に美しい杔(ウ)や木理が現れます。建築材(洋風建築、床板)、家具材(洋家具、仏壇)、器具材(額縁、衣裳箱)、彫刻材(仏像…飛鳥時代のものに多い)などに利用します。かつては材からとれる樟脳を防虫剤、医薬品(カンフル剤)、セルロイドなどの原料としましたが、今日では合成品がほとんどです。瀬高町(現みやま市)には日本でただ一軒天然樟脳を作る工場がありましたが、最近宮崎県でも操業を始めました。

昔から神社境内などによく植えられていて、そこから鳥に食べられて繁殖したと思われるものが標高400m以下の山地によく見かけます。また暖かい地方では、記念樹や公園木としたり、集団で植えて早く森林とする木としても利用されます。

日本では洪積世や鮮新世の地層からは出土せず、沖積層で見られるということですので、もともと野生していたものではなく、歴史時代になって中国から持ち込まれたものが、各地に広がったと考えられます。本県立花山の群生地は「クスノキ原始林」として、昭和3年に国の特別天然記念物に指定されています。しかし前の事柄や一部に木が直線的に並んでいる状況などから見て、数百年前に植えられたものとするのが妥当です。その他に宇美八幡、太宰府天満宮、築城町大楠神社、朝倉市隠家森(カクレガノモリ)など6件が国指定、久留米市の高良大社、善導寺、北野天満宮をはじめ24件が県指定の天然記念物となっています。かつて環境庁が日本の巨木(直径)調査をしたところ、ベスト10のうちベスト9までがクスノキで占められていました。また日本各地のクスノキの巨木の解説には樹齢2000年とか3000年という、かなりマユツバのものがありますが、先に述べたことを考慮すると最大でも1500年を超えないと思われます。

久留米市では高良山から耳納山にかけての南斜面には、昭和のはじめ頃に樟脳を採るために植えられたものが広い面積見られます。起源は人工林ですが80年近くたっているために、天然林のような状態になっています。このような林は北九州市門司区吉志、瀬田町烏尾峠、朝倉市寺内ダム周辺、大牟田市三池山などでも見られます。

日本では樟とか楠という字をあてていますが、楠は中国ではタブノキのことなので、混乱を避けるために樟と書いたほうがいいでしょう。

郷土の樹木11

クスノキ 猪上 信義

クスノキ科の常緑高木で、日本の本州南部、四国、九州に自生し、中国中南部やベトナムなどにも分布しています。

樹皮は若いときは緑色で滑らかですが、古くなると暗褐色で縦に深く切れ込みます。枝葉はよく茂り、笠状の樹形となります。病虫害が少なく、成長が早く、寿命が長く、台風などで大きな枝が折れてもすぐに復元します。そのため樹高20m、胸高直径1mを超える木はざらで、時に樹高40m、目通り直径7m(幹周り20m)に達するものもあり、日本の樹木で最も大きくなる木です。

葉は革質で楕円形、縁に鋸歯がなく、長さ6~10cm、先は鋭くとがり、葉の脈は3行脈、柄は3cm前後です。花は5月頃、新枝の葉の脇に円錐花序につき、全体黄緑色となります。果実は球形で径8mmくらい、10~11月ごろ黒紫色に熟します。

材は有用な散孔材(サコウ材)でやや軽く、全体に強い樟脳臭があり、心材は紅褐色、辺材は灰白色

「下合瀬の大カツラ」国指定天然記念物

高山 美子

所在地 佐賀県佐賀市富士町大字下合瀬
 樹種 カツラ 樹齢1000年
 国指定天然記念物 樹高34m 幹周り13.8m
 撮影日 1996年10月31日 高山美子
 約14年前婦人会のメンバーで古湯温泉とこの富士町に行った時、マイ



クロバスの運転手さんが、連れて行って下さった。この大カツラの根元まで近づき幹にふれてきた。基幹にひこばえが25本も伸び、ハート型の葉をつけ、樹勢もすばらしかった。5月～6月には紅色の花を一面に咲かせる。また、会いに行きたい樹です。

生き物に魅せられて その47 クサカゲロウの巻 松永 紀代子

2009年7月、庭のコナラの葉から小さな音がしてきた。ブルルンパン、ブルルンパン。音の主は～、ああ、クサカゲロウの仲間だ。同じ葉や隣の葉に3匹もいる。1匹が羽を震わせては腹を葉に打ち付けていたのだ。ひょっとして求愛しているのだろうか。

けれど、1匹が別の葉に移ると音もやんだ。すると音をだしていた虫は葉の縁をかじり始めた。そうか、この音は威嚇の音。彼らは餌の取り合いをしていたのだ。

しかし彼らを取り合った葉は、若葉でもなければ、無傷の葉でもない。何者かが先に葉の縁をかじり、その痕が0.5mmほど少し黒っぽく枯れているのだ。柔らかそうな緑の部分には興味を示さず、ひたすら他の昆虫の食痕の黒くなった縁にかじりついている。虫食いの葉など他にも沢山あるのに、不思議なことだ。枯れ具合、それとも何か特別な条件があったのだろうか？

ひととき 動物笑い話 その53 コアラの株 米田 豊

「パンダと並ぶ人気者はコアラね」「そうね、共にぬいぐるみのように愛らしいからね」「主食がパンダがタケやササ、コアラがユーカリと特殊化しているのも共通ね」「他の動物と競合しないから良かったのよ」「私、修学旅行で野生のコアラを抱いたよ。可愛かったな～」「へえ～、いいなあ～」「でもね、前足の第1指と第2指が残り3本と逆に向いている事と動きがとてもスローなのは驚いたわ」「前足の形はカメレオンに似ているね。しっかり枝を握れるのよ。スローな動きも似ているよ」「カメレオンで、目が左右自在に動き、ネバネバの長い舌で一瞬に虫を捕まえるあの爬虫類の事?」「そうよ、周囲の環境に合わせて体色を変化させる事も出来るの。昔、飼っていたの」「おー嫌だ!嫌だ!カメレオンが引き合いに出されるなんてコアラの株が下がったみたい」

*有袋目のコアラ科に属し、オーストラリア東部ユーカリ林に生息し、昼間は休憩し、夜に採餌活動。「オーストラリアのナマケモノ」の別名有り。

身近な野草・薬草

スギナ

橋田 沙弓

スギナは夏緑性の柔らかい草本でシダ植物、トクサ科。孢子嚢穂はつくしと呼ばれ、早春、楽しい草摘みの一つで、ハカマをとって煮付けたり、玉子とじにして食べると、ほろ苦くおいしい春の味で、胃、腸、肝臓によく毒下しをしてくれる。スギナは九州南部では少なくなり、屋久島以南にはみられないようで、北半球の暖帯以北に広く分布している。スギナには3~16%もの珪酸が含まれるが、この珪酸と、他に含まれる未知の成分が多くての難病を治す力となっているという。

昔から、民間療法で血止めや腎臓・膀胱の病気に使われてきたスギナですが、現代のヨーロッパでも、このスギナのかけがえのない効果が再発見されている。ドイツの自然療法医のナイブ神父はスギナが出血・膀胱・腎臓・結石・カリエス・さらにガン性肉腫・リウマチに効果があることを報告。もちろん、飲む以外にも暖めて布にくるみ患部に湿布もよいと。また、スイスのキコンツレ神父は老年期に達したすべての人々に、毎日スギナのお茶を一杯飲むことをすすめているとのこと。これでリウマチや関節炎、神経痛とおさらばできると。東条百合子さんはスギナを煎じて飲むことで、ガンや糖尿病・腎臓炎・結石・肝臓病・胆嚢炎、特に、ガンや肺結核、慢性気管支炎、肺治療によく効くという。

スギナ茶の入れ方を紹介しましょう。生の葉でも干した葉でもよく、葉をひとつかみ急須にいれて、熱湯を注いで5~6分おいてから飲むとよい。煎じるときは、5分~10分煮立ててポットにいれて少しずつ飲みましょう。



スギナ

例会報告

第378回例会 春の野草を楽しむ会

事故のため事前準備ができず中止となりました。

第379回例会

高良山樹木の名札付け 大木 武彦

4月29日(木・昭和の日)恒例の高良山樹木の名札付けをしました。今回は高良大社境内から奥の院への南回り遊歩道でおこないました。参加者は初参加の人が多く11名でした。講師の宝理先生(八女の自然に親しむ会代表)の指導の下、各人、先生が作成された資料と名札、とじひも、黒マジックを持って、高良大社下駐車場の昆虫塔の近くから出発しました。

一見すると樹肌が同じようにみえる木が多く、樹木の名前はなかなか難しいのが実感でした。宝理先生は同定には葉を観察することが大切であり、従って、大きな木の場合はできるだけ葉を観察できる木を選んで名札をつけるようにとのご指導でした。丁寧な解説をお聞きしながら、今回は15科24種に名札をつけました。

森林公園で昼食をしたあと、帰路は北面コースを通り、以前の名札付けの樹木で再確認をしつつ、名札の色落ち分の上書き補修をしながら下山しました。

樹木の名を覚えるのは、何度も回を重ねることで知識を深めていくのが最良かなと感じました。快晴のゴールデンウィーク最初の祝日、参加者全員ハイキングを兼ねたすがすがしいボランティア活動の一日となりました。



木に名札を付ける子ども

高良大社境内から奥の院への南回り遊歩道コース の樹木

ヒノキ科	ヒノキ
ブナ科	ツブラジイ シリブカガシ ウラジロガシ
ボロボロノキ科	ボロボロノキ
クスノキ科	クスノキ ヤブニッケイ タブノキ イヌガシ
ツバキ科	ヤブツバキ モッコク ヒサカキ
バラ科	ヤマザクラ
ユキノシタ科	コガクウツギ
ユズリハ科	ヒメユズリハ
アワブキ科	ヤマビワ
ミズキ科	アオキ
エゴノキ科	エゴノキ
ハイノキ科	ミミズバイ クロキ シロバイ
モクセイ科	ネズミモチ
アカネ科	アリドオシ
スイカズラ科	ハクサンボク
	15科24種

参加者の感想

江頭 義人 さん

子供の頃からなじんだ山だったけれど、植物の名前等殆んど知らなかったが、先生等に教えてもらい乍ら、良く考えて命名されたものだと感心し、より植物に対する興味を持つ機会になったと思います。

吉富 巧 さん

今日は、宝理先生と河内先生にご指導いただきました。あらためて自然のすばらしさを実感する事ができました。楽しい一日でした。又、機会があれば参加したいと思います。ありがとうございました。

浅田 かな さん

おもしろかったです。かたつむりのからもありました。木になまえをかきました。いきみちつじがおおきかったのでつつじのトンネルをくぐりました。

浅田 ゆう子 さん

本日は一緒に木の名札付けをさせて頂いてありがとうございました。7才の娘と一緒に参加しました。いろいろな木に名札をつけていくことは、初めてのことでした。今まで山に登ることだけに目が行き、山の植物やきのこのこと昆虫のことは、あまり目を向けていられませんでした。けれど自然を守る会の皆さんと一緒に何度か高良山をゆっくりと登っていくことで、木の名前やどうしてそのような名前がつけられたのか。例えばアリドオシはアリを通すほどの小さなゲがあるとか。いろんな事を知りました。周りの自然を知り、登るとまた違う楽しさもあり、子どもとの会話も弾みます。そして自然を大切に守っていくことが大切だとも、身をもって感じる事ができます。これからも山の事をもっと知り触れあっていきたいです。



最後に参加者全員で記念写真を撮りました。

第380回例会報告

高良山バードウィーク探鳥会

丸山 由紀子

5月9日、日本野鳥の会筑後や久留米市農政部との共催で探鳥会を行いました。気候もよく四季の森ではたくさんの鳥の声が聞こえさわやかな1日となりました。高良内幼稚園の駐車場に集合した参加者は34人で、出発前からさっそくバードウォッチングが始まっていました。中には、とても熱心で鳥の名前に詳しい頼もしい子供たちもありました。野鳥ビンゴのマス目に鳥の名前を書き込み準備もばっちりで行きました。木々の間で大変よく通るきれいな声で鳴いていたのはソウシチョウでした。ソウシチョウは姿もきれいですが人工的に移入された種ということで探鳥会ではいつも番外扱いです。少し気の毒な感じもしますが、それにしてもかなりの数がここ高良山でも生息しているのだとあらためて気づかされました。鳥の声は常に聞こえていても双眼鏡でじっくり観察するチャンスはなかなかありませんでしたが24種の鳥を確認することができました。5×5のビンゴも次々とリーチ！やビンゴ！の声があがっていました。さわやかな風に吹かれながらお弁当を食べ帰りには菖蒲池でオタマジャクシを採って・・・と子供たちも楽しんでいました。

確認された種

キジバト、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、ヒヨドリ、ヤブサメ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カササギ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、オオタカ、カワセミ (ソウシチョウ)

探鳥会感想文

大牟田市 永野 由佳さん

今回、初めて参加させていただきました。学生の頃から野鳥の勉強をしたいと思いつつ、敬遠してきましたが、今回小さなお子様楽しみつた

くさんの知識を吸収しているのを見て私も、頑張ろうと思いました。ありがとうございました！

久留米市 今村 有紀子さん

初めてのバードウォッチングでした。山を登るのがきつかったけれど、最後に、一番見たかったキセキレイをみられてとてもうれしかったです。また来たいと思いました。

久留米市 佐藤 樹さん

前にも何回か来た事があります。私が一番見たかった鳥、オオルリは、なき声しか聞けなくて少しざんねんです。でもとても楽しかったです。次回も来たいです。



野鳥の声を聞きながら四季の森を散策しました。



参加者全員で記念撮影

《行事案内》

◇ 第382回例会：

水辺の自然観察会と魚ツチング

筑後川発見館くるめウス前、さくら橋より上流の水生生物（水生生物、魚類など）、河川敷の植物や昆虫などの自然観察を行います。ご自由に参加ください。

〔日 時〕：7月19日（月・海の日）小雨決行

〔集合・解散〕：9：30 くるめウス

12：30 くるめウス

〔参加費〕：無料

〔持ち物〕：観察・採集用具、筆記用具、タオル、長靴、ゴムぞうりまたは古い靴、ぬれた場合の着替え、帽子、水筒など。

〔共 催〕：筑後川まるごと博物館運営委員会

◇ 第383回例会：

筑後川観月会

例年どおり、お抹茶をいただきながら、月や星の観察をします。イベントはバンド・トラップスの演奏と歌があります。月面観察の指導は、吉田哲磨氏です。ご自由に参加ください。

〔日 時〕：9月18日（土）雨天決行

〔集合・解散〕：19：00 くるめウス

21：00 くるめウス

〔参加費〕：300円

〔共 催〕：筑後川まるごと博物館運営委員会

《事務局だより》

はやいもので今年も6月が終わろうとしています。今年はまだか梅雨末期の大雨が前倒しされているようで、先日予定していた6月例会キノコの自然観察とキノコ汁会は前日の予報に基づいて中止せざるをえませんでした。降水確率80%、雷、強風、これでは中止の判断もやむを得ない。それにしても今年は例会の中止が多いですね。2月、3月そして6月と中止になりました。例会を愉しみにしている会員のみなさまには大変に申し訳ないのですが、荒天が予想されるのに決行し、もしも事故などが発生した場合、事務局の判断を問われることにもなりかねませんので、毎回慎重な判断をしております。

私たちが相手にする自然は楽しいものであると同時にとても危険なものでもあります。例会は自然を愉しむと同時に自然の恐ろしさも知る。例会の判断にはこの考慮も必要です。（古賀）

1. 会員異動

退会 古賀正子 佐藤好雄 森光千春（久留米市） 森田公造（小郡市）

2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙（口座番号01750-1-40114）に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

3. 原稿募集

次号110号は平成22年10月1日発行予定です。原稿の〆切は9月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会（定例）は原則として毎月第1水曜日の19：00～21：00まで、えーるピア久留米2階談話室で行います。皆さんも気軽にご参加下さい。

（7月7日、9月1日、10月6日）

書籍のご案内

当会で発行しております下記の書籍については筑後川発見館くるめウスにて発売しておりますので、是非知人友人の方に紹介してください。

◎ ひとつの川から見えるのもの

A4版 約350ページオールカラー

定価 2000円

◎ 動物笑い話

新書版 約120ページ

非売品ですが御希望の方には500円でお分けいたします。

久留米の自然

平成22年7月1日 第109号

発行 久留米の自然を守る会

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0827

久留米市山本町豊田2320-6

TEL 46-8622 FAX 46-8623（古賀）

印刷 千年屋印刷

TEL 43-2400 FAX 43-2408